

小児・AYA世代 造血幹細胞移植患者の 復学・就労支援セミナー

11/3(月)

10:00～12:15

開催報告

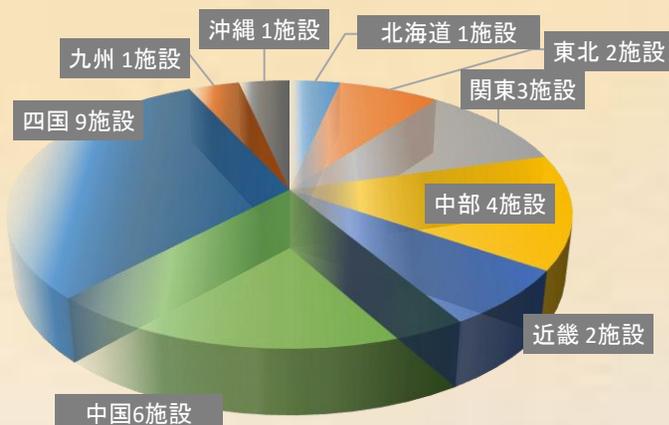
開催方法：Zoomによるハイブリッド開催

参加者：63名

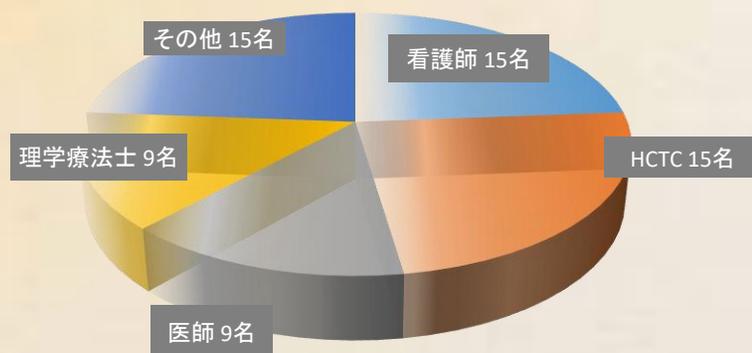
参加施設：29施設

ブロックを超えて多くの施設よりご参加いただき、医師、看護師、移植コーディネーター、理学療法士などさまざまな職種の皆さまにご参加いただきました。

【参加施設】



【参加職種】



造血幹細胞移植患者に対するリハビリテーション ～自宅復帰・復学に向けた支援～

滋賀医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部
飛田 良先生

飛田先生からは、小児・AYA世代の造血幹細胞移植患者に対する自宅復帰・復学に向けた支援について、ご講演いただきました。

小児がん・移植患者に対するリハビリテーションの意義として、身体機能の維持・改善だけでなく、自己肯定感や社会性の育成につながる包括的支援の重要性が示されました。

滋賀医科大学附属病院では、多職種が連携する「Child Life Support Team (CLST)」を中心に、治療早期から退院後まで継続した介入を実践されています。理学療法士が「遊び」を取り入れながら発達段階に応じた身体活動を促し、学校や保護者との連携によって円滑な復学につなげていることが紹介されました。

さらに、早期リハビリ介入は体力回復やQOLの改善に寄与し、退院後の復学時期を早める効果があることが報告されました。国内初の小児がんリハ多施設共同研究も開始しており、今後のエビデンス蓄積が期待されています。

小児・AYA世代移植経験者の就学・就業をめぐる課題

広島市立広島市民病院 血液内科 西森 久和先生

西森先生からは、小児・AYA世代における就学・就労の現状についてご報告いただきました。

まず、高校生・大学生といった年代では、院内学級などの支援が十分ではなく、就学支援体制が依然として不十分である現状が示されました。また、がん診断時の離職率が高いことも大きな課題であり、治療と仕事を両立するためには、早期の情報提供に加え、医療機関と職場が連携して支える体制が不可欠であることが強調されました。

さらに、国としては「療養・就労支援指導料」を算定できる仕組みが設けられているものの、自施設も含め、実際に算定体制が整っていない医療機関も多いとの指摘がありました。制度と現場の間にあるギャップを埋める必要性が改めて認識されたご講演でした。

AYA世代移植患者さんの就労支援について

～移植チームでの実践より～

札幌北榆病院 移植医療支援科 HCTC 山崎 奈美恵先生

山崎先生からは、私達、医療従事者が実践できる就労・両立支援について、札幌北榆病院での取り組みや事例を交えてご講演いただきました。

治療の流れに準じて、休職支援、復職支援、就労継続支援と段階的かつ継続した介入が必要である点が示されました。また、就労支援は両立支援にとどまらず、患者が利用できる社会資源の把握と、その活用を支えることも就労支援であり、重要な支援であると強調されました。

講演では、高額医療費制度、傷病手当金、医療費控除といった一般的な制度に加え、HLA検査の費用、骨髄・臍帯血の運搬費に関する療養費制度、ワクチン予防接種費用の助成制度など、移植治療に関連した支援制度についても詳しく紹介いただきました。

さらに、実際の対応事例も共有され、日々の患者支援に直ちに活かせる内容として大変有意義な講演となりました。

本セミナーは、医療・教育・福祉が連携して患者の「生活と未来」を支える仕組みづくりの重要性を、改めて深く認識する機会となりました。

各分野の方による講演や事例紹介を通して、多職種が協働することで得られる支援の広がりや、今後の課題について多くの気づきを得ることができました。

ご登壇いただいた先生方、ご参加くださいました皆様、誠にありがとうございました。次回のセミナーにもぜひご参加ください。

造血幹細胞移植推進拠点病院
愛媛県立中央病院